



Medical Management Specialist

MMS ニュース

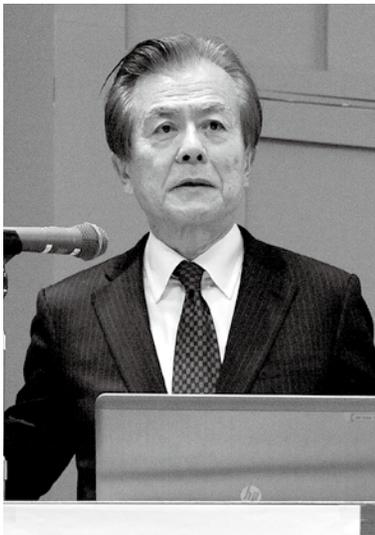
2016

3
月号

●発行/一般社団法人
日本医療経営実践協会
(JMMPA)
〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町
4-14
神田平成ビル7F

●編集/日本医療企画
●毎月1回発行

お問い合わせ先 一般社団法人 日本医療経営実践協会 事務局 TEL.03-5296-1933 FAX.03-5296-1934 http://www.JMMPA.jp/



「プラチナ社会」実現に向け、熱弁を振るう
小宮山宏氏

既存の手法では解決できない課題が山積
求められる新たな器と中身

小宮山氏は現在を人類史の転換期と捉え、21世紀の世界が必要とする新たな社会モデルを「地球環境問題を解決した元気な超高齢社会」と位置づけ、「プラチナ社会」と命名した。「プラチナ」には、金より高価で、その輝きを失わないという元気なイメージがあり、そこに小宮山氏の思いが込められている。

日本をはじめ先進国は、少子超高齢化、環境破壊、需要不足による経済の低成長といった共通の問題に苦しむ、未だ持続可能な社会システムの確立を見出せないでいる。小宮山氏はその原因を、「物質的な豊かさ」にあると指摘し、自動車の保有台数等を例にデータを提示し、「飽和」をキーワードに挙げた。

1970年代、日本はエネルギー危機や公害問題を克服。世界に先駆け省エネ社会を実現し、エネルギーの効率化と先進的な環境技術を手に入れ、世界一のモノづくり大国に上りつめた。しかし、物質的な豊かさが原因であるゆえに、生産性の向上やコストダウンといった従来の、あるいはその延長線上にある手法では抱えている課題は解決できないと断言。

「官主導の中央集権的「上意下達」を脱し、プラチナ社会の実現で世界をリード」

「プラチナ社会」における地域医療は、健康自立の支援やICTビッグデータを利したさまざまな健康の産業化が図られ、各地で実証実験が行われるとともに、地域包括ケアシステムが進められるという。これまでの厚生労働省や

言。革新性を伴う技術やサービス、それらを十分に活用するための新たな制度設計や法整備の導入が必要で、高齢者だけでなく、多世代がいきいきと暮らし活躍できる成熟した社会モデルこそ「プラチナ社会」であると強調した。

曾有のスピードで少子超高齢社会を突き進む日本が、課題解決先進国として世界をリードすることが可能になると、その輝かしい未来像を熱く語り、最後に「聞いたことは忘れた。話したことは覚えた。やったことは身についた」との言葉を述べ、行動への奮起を促した。



熱心に聞き入る聴衆。築90年近く経て、なお斬新かつモダンで重厚な雰囲気漂わす学士会館。2003(平成5)年に国の有形文化財に指定

2016年「新春講演会」&「新春の集い」 一般社団法人日本医療経営実践協会 主催

プラチナ社会とは何か？

医療経営士は地域住民と連携し、新たな地域医療の構築を！

1月30日(土)、東京都千代田区神田の学士会館にて、2016年「新春講演会」&「新春の集い」が開催された。第1部の新春講演会では、東京大学第28代総長を務め、現在プラチナ構想ネットワーク会長の小宮山宏氏(三菱総合研究所理事長)が「プラチナ社会の実現」地域医療はどうか変わるのか?」をテーマに講演。第2部の「新春の集い」では、全国から駆けつけた医療経営士が情報交換と人脈づくりに交流を深めた。資格創設から5年が経過し、新たなステージに向けてその真価が問われるスタートとなった。

第5回 全国医療経営士実践研究大会 名古屋大会 参加エントリーならびに演題発表登録を開始いたしました。あらかじめご案内いたします。

大会テーマ **決定!** **医療経営士が生み出す地域イノベーション**
—— 新たな医療経営が描く日本の未来像

2016年 **10月29日(土)**
10月30日(日)

求む! 医療経営士による演題発表
医療経営士による日ごろの実践の成果を発表する場です。多くの医療経営士のチャレンジをお待ちしています。

●会場 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 ※JR名古屋駅徒歩5分

●大会運営委員長 **井手 宏**
日本医療経営実践協会東海支部支部長
一般社団法人愛知県医療法人協会会長
医療法人財団愛泉会愛知国際病院理事長

【事務局】 一般社団法人 日本医療経営実践協会 ☎03-5296-1933 http://www.jmmpa.jp/seminar/zenkokutaikai/



「新春の集い」参加者一同



左から吉原健二代表理事、宮下崇氏、川淵孝一教授



左から山田竜也氏、高玉敬洋氏、西田智之氏

小林利彦代表理事代行

小林利彦代表理事代行
 「新しい発想を生み出してほしい」と語った。
 医療経営士は従来の資格の延長線上にある資格ではない。資格を「通行手形」に現場へ足を運び、実践家として組織横断的に活躍することが期待される。資格創設より5年が経過し、今こそその真価が問われる正念場といえよう。

今こそ資格創設の意味を考え、実践家として現場へ積極介入を！
 小宮山氏による熱のこもった講演後、同館内の別会場へ移り、新春の集いが開催された。開会に伴い、主催者挨拶として吉原健二代表理事が登壇。現在の安倍内閣でも、それ以前の民主党政権でも、経済成長一辺倒の政策で、医療界において必ずしも好ましくない方向に向かっていくことに触れ、これまでの延長線上でやっていくのはダメ、今までの考え方や価値観を委ねる必要があると指摘。これからの医療は一つの

病院で完結するのではなく、地域の他の医療機関や関連組織と連携し役割分担を行っていくことが大事。地域によってやるべきことがそれぞれ異なり、その実情やニーズを見極め、医療経営士が院長等と図って主導していくことが必要。医療経営士は自分の使命・責任をしっかりと認識してほしいとのエールが送られた。

続いて、横浜市長ほかの祝辞が紹介され、第3回「医療経営士1級」合格者11人を代表し、宮下崇氏（順天堂大学医学部附属静岡病院医療保険室係長）が乾杯の音頭をとった。しばしの歓談後、第4回「全国医療経営士実践研究大会」金沢大会で演題発表の審査委員長を務めた川淵孝一氏（東京医科歯科大学大学院教授）が壇上に総評に加えて審査方法の課題等について総括した。演題発表において最優秀賞を受賞した高玉敬洋氏（帯広厚生病院事務次長）、優秀賞受賞の山田竜也氏（やわたメディカルセンター）診療部サポート室主任）および西田智之氏（浅ノ川総合病院地域医療連携室主任）の3氏による受賞の喜びの声を伝えられた。

中締めは小林利彦代表理事代行（東京大学薬友会会長）が挨拶。プラチナ社会の完全な実現は難しいと予測しながらも、現場へ足を運ぶ小宮山氏をウォーキング・ディレクターと称し、賞賛。実際に現場に足を運んで介入し、問題解決に悩み、考えることによって生み出されるものが大事で、1時間聞いて2、3時間考え悩むことが脳を活性化させる。ぜひ小宮山氏の話の中から新しい発想を生み出してほしいと語った。

支部NEWS 九州・中国支部

地域に貢献できる医療経営士を目指して九州支部と中国支部が新春特別研究会を開催!

「第4回全国大会」発表者講演に加え診療報酬改定のポイントを解説

九州支部では1月23日(土)、福岡県福岡市で3支局(大分、長崎、鹿児島)合同による新春特別研究会を開催しました。当日は九州各県から30人を超える医療経営士が参加。開会のあいさつでは、九州支部理事・南九州(鹿児島)支局長で、医療法人玉昌会の高田昌実理事長が「医療界は病床削減の方向に進んでいるが、医療経営士はしっかりと地域医療を見つめて、取り組んでほしい」と参加者を激励しました。

2部構成で行われた研究会の第1部「第4回



発表者講演に登壇した東泰成氏(左)と秋吉裕美氏

『全国医療経営士実践研究大会』発表者講演』では、社会医療法人製鉄記念八幡病院経営管理部担当課長の東泰成氏と、同病院経営管理部企画課係長で、北陸支部長賞に輝いた秋吉裕美氏が登壇。「第4回全国大会」の演題発表を支部研究会の場で再現した両氏は、自身の取り組みを振り返りながら、医療経営士の役割について、「最適な経営戦略を常に考え、立案・実行・検証を支えることが重要」(東氏)、「多職種の“気づき”を一緒に検討・改善することで一体感や達成感をつくり、その効果を可視化して経営改善につなげていくべき」(秋吉氏)と述べました。

第2部「九州支部・支部長講演」では、橋爪章支部長(元保健医療経営大学学長)が「平成28(2016)年度診療報酬改定の概要～病床機能分化の推進～」をテーマに講演。改定のポイントや療養病床改革、患者申出療養制度について解説するとともに、医療経営士として国の政策に目を向けるよう訴えました。

生涯活躍のまちづくりの実現に向けて医療機関はどのように貢献すべきか

1月30日(土)には、中国支部が広島県福山市



講師を務めた中国支部の大田理事(左)とグループ討議の風景

の脳神経センター大田記念病院において、新春特別研究会を開催。中国支部理事で、社会医療法人祥和会の大田泰正理事長による講演「急性期医療と地域包括ケアシステム～医療・介護から生涯活躍のまちづくりへ」とグループ討議「まちづくりのために、何をすべきか」を行いました。

講演で大田理事は、社会医療法人祥和会の地域貢献事業を紹介しながら、生活基盤の支援(まちづくり)の充実に向けて、介護施設や企業と共同することの重要性を指摘。「地域住民と顔が見える関係づくりをしていこう」と呼びかけました。

なお、両研究会の詳細は、会報誌『理論と実践 No.20』(2月下旬発行)にて紹介します。

石井先生に聞きました!

「保健医療2035」に関する 3つの質問

2035年、日本は健康先進国へ。

—そんなスローガンを掲げた「保健医療2035」が、昨年6月、公表されました。冒頭に「様々な暮らし方・働き方・生き方に対応できる20年先を見据えた保健医療システムをつくる」とありますが、これからの病院経営に、どう関係してくるのでしょうか?

支部研究会の講師としておなじみの石井富美先生(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)に、3つの質問をしました。

医療経営士の
役割と一緒に
考えていきま
しょう!



石井富美先生
多摩大学
医療・介護ソリューション
研究所フェロー

Q1 「保健医療2035」って、何ですか?

A1 3つのビジョンに注目!

「保健医療2035」は、20年後を見据えた保健医療のあり方について、厚生労働省が策定懇談会を設けてまとめた提言書です。この懇談会では、急激な少子高齢化や医療技術の進歩など医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、保健医療政策のビジョンとその道筋を示すため、国民の健康増進、保健医療システムの持続可能性の確保、保健医療分野における国際的な貢献、地域づくりなどの分野における戦略的な取り組みが検討されました。2015年2～6月、合計8回の懇談会が開催され、提言書「保健医療2035」がまとめられました。

懇談会メンバーによる検討だけでなく、アイデアを募るためにパブリックコメントを求めたことも話題になりました。医療経営士さんの中には、コメントを送った方がいらっしゃるかもしれませんね。

国民の健康意識に着目した内容や、死生観に基づいて最期まで自分らしい人生を全うするための仕組みづくりなど、少子高齢社会における保健医療のあり方について言及されており、「保健医療の価値を高めるリーンヘルスケア」、「主体的選択を社会で支えるライフ・デザイン」、「日本が世界の保健医療を牽引するグローバル・ヘルス・リーダー」という3つのビジョンが掲げられています。

Q2 「保健医療2035」って、病院経営にどんな関係があるのですか?

A2 20年後の医療界や病院像を考える参考に

「保健医療2035」には、2035年に日本の社会保障制度がどうなっているか、生活者の意識がどう変わっているかが書かれています。つまり、「2035年時点で、病院はどうあるべきか」が書いてあるということです。

ビジョンの1つに掲げられている「リーンヘルスケア」は、マサチューセッツ工科大学のリーン生産方式の医療分野への応用で、ムダを省き工程を改善しトータルコストを抑える方式を導入していくというものです。「患者にとっての価値に基づく医療の質の向上や効率化を促進」とあるので、これまでの価値提供型のマーケティングから価値共創型へのパラダイムシフトが必要でしょう。「ライフ・デザイン」では、国民のヘルスリテラシー向上に向けた取り組みが必須です。さらに、単なる医療費削減ではなく、「健康への投資」による生活の質向上への取り組みが求められるため、保険収入だけに頼らない経営体質への転換も視野に入れることになります。

オリンピックを目指すアスリートは、4年後の自分の姿を思い描いてトレーニングに励むそうです。20年後の日本は超少子高齢社会となり、働き手も少なくなっています。「保健医療2035」を参考に、自院がどんな病院になりたいか、地域でどんな役割を果たすべきか、しっかり検討したうえで、長期計画を立ててください。

Q3 「保健医療2035」に対応するために、医療経営士が身につけるべきスキルとは?

A3 長期的視点で経営を考え実践する力が必要

これからの20年間、自分たちの病院が進むべき方向性を見据え、論理的にアクションを組み立てていく力が求められます。課題を抽出するためには全体を俯瞰し、客観的に現状を把握する必要がありますので、データを上手に活用する力、データに基づいた分析力が必要です。さらに、論理的思考で解決への道筋を組み立てる力、解決策を実践するために周囲を巻き込むコミュニケーション力とマネジメント力も求められます。また、時代の流れ、パラダイムシフトに柔軟に対応する思考力、顧客価値を見出し新しい価値をつくり出すためにイノベーションを起こす力も求められます。これらの能力を身につけることが、長期的な視点での経営感覚を磨くことにもつながるでしょう。

現在、関東支部で開催している石井ゼミでは、「保健医療2035」を読み解きながら具体的アクションを紹介するとともに、ロジカルシンキングやデータ活用法、多職種間コミュニケーションスキルなどについて、ケーススタディやグループワークを取り入れながら実践的に学んでいます。来年度からは、関西支部や東海支部でも開催を予定していますので、興味がある方はぜひご参加ください!

石井ゼミ参加者からの声



川田兼司さん
医療法人社団紺整会
船橋整形外科病院 企画部部长
医療経営士3級

業界経験の浅い小職にとって、石井先生の著書『経営企画部門のマネジメント』(日本医療企画刊)はまさに「目からウロコ」でした。何回も読み返し、さらに詳しく学びたいと思っていました。石井ゼミ開講の記事を見て即参加を決めました。課題解決・改善など、経営企画部門に必要な業務知識・ノウハウ、経営マインドを学び、部下に伝授することで、全体的なレベルアップを図りたいと思います。

大阪開催が
決定!

イノベーションを起こせる
人材になるための

石井ゼミ 第2弾

「保健医療2035」
を読み解く

●日時・テーマ ※全日程14:00～17:00

4月16日(土)	・「保健医療2035」を読み解く① 課題解決とロジカルシンキング
5月21日(土)	・「保健医療2035」を読み解く② 課題抽出と改善のためのデータ活用
6月25日(土)	・「保健医療2035」を読み解く③ 価値を生み出すマーケティングとブランディング
7月23日(土)	・「保健医療2035」を読み解く④ 実行力を高めるコミュニケーション力とプロジェクトマネジメント

名古屋会場も
5月以降開催予定

講師 石井 富美氏
(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)

受講料 医療経営士会員: 10,000円
(税込・全4回) ※各回参加: 3,000円
一般: 15,000円
(税込・全4回) ※各回参加: 4,000円

会場 新日本有限監査法人
大阪事務所セミナールーム
(梅田阪急ビルオフィスタワー37階)

協会事務局からのお知らせ

**「医療経営士」在籍企業・医療機関等
ご登録のお願い
登録情報が変更になりましたら、
「変更申請」を!**

気が付けば、今年もう3月目前。新年度を控え、会員の皆様もお忙しい日々を送られていることと思います。

さて、本年10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたって愛知県名古屋市ウインクあいちで開催する、第5回「全国医療経営士実践研究大会」名古屋大会の大会テーマが「医療経営士が生み出す地域イノベーション——新たな医療経営が描く日本の未来像」に決定いたしました。

また、本協会では会員の皆様へ、所属先医療機関名、法人名等登録へのご協力をお願いしております。会員の皆様にご登録いただいた所属先医療機関名、法人名、学校名は協会Webページやパンフレット等で公開いたします。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を、迅速かつ確に解決できる能力を持った人材である「医療経営士」。この有能な人材の所属する医療機関名、法人名、学校名を公開することで、「経営力」を持った医療機関であること、また医療機関をマネジメントする人材を有する企業、法人であることをアピールすることができます。

ぜひご登録いただき、皆様の所属先のアピールにご活用ください。なお、所属先の公開にあたり、個人情報は一切公開いたしません。

◆掲載ページ・ご登録はこちらから

<http://www.jmmpa.jp/support/cat108/>

続いて、会員登録情報の変更手続きについて、事務局より会員の皆様へお願いがございます。本紙をはじめ、会員の皆様向けにさまざまな送付物やメール配信がございますが、「宛所なし」や「エラー」で配達・配信できないケースが毎回見られます。住所・勤務先・メールアドレス・氏名など、申請時の内容から変更が生じた場合は、「個人正会員登録変更申請書」の提出が必要となります。変更の際は、協会ホームページの「会員サポート」にごぞいます「個人正会員登録変更申請書」をダウンロードいただき、協会へご郵送ください。ご不明な点がございましたら、協会までお問い合わせください。

それではまた次号でお会いいたしましょう。

第3回「医療経営士1級」資格認定審査
新たに6人の認定者が誕生
第3回となる「医療経営士1級」資格認定審査を行い、「医療経営士1級」認定者6名が新たに誕生しました。
今回の結果により、医療経営士1級認定者は合計16名となりま

日本医療経営実践協会

NEWS & TOPICS

す。1級認定者の今後の活躍にご期待ください。
**4月4日(月)より
2級試験エントリー開始**
本協会では、6月19日(日)実施の第11回「医療経営士2級」資格認定試験の受験エントリーを、4月4日(月)より開始します。エントリーの締切は5月6日(金)。
受験料、試験時間、試験内容などの詳細は、本協会ホームページの2級試験概要をご覧ください。
なお、第11回「医療

経営士2級」資格認定試験と同日に開催される第18回「医療経営士3級」資格認定試験の受験エントリーも、同スケジュールで受付を開始します。
2016年5月期限分年会費請求の案内ならびに更新の受付を開始
本協会では、本年5月で年会費が期限となる会員約700名に対し、年会費(1万円)の請求を開始しました。支払期限は年会費期限の1カ月前となる本年4月14日(木)です。また、同じく本年5

月で更新を迎える会員約200名に対し、更新受付を開始しました。対象者には年会費請求ならびに更新の案内を郵送しています。
第17回「医療経営士3級」資格認定試験が終了
第17回「医療経営士3級」資格認定試験が、2月21日(日)に全国11都道府県で開催されました。合格発表は3月22日(火)。本協会のホームページに掲載されるほか、受験者本人に合否結果通知が郵送されます。

MMSニュースを活用して、「医療経営士」の認知度アップにご協力ください!

会員サービスの一環として毎月発行しているMMSニュースを活用して、「医療経営士」の認知度アップにご協力くださる会員様を募集しております。職場やお取引先へMMSニュースをお配りいただくことで、ご自身の活動のアピール資料としても、ご利用いただけると思います。

配布用のMMSニュースをご希望の方は下記のアドレスへ「MMSニュース希望」とタイトルをつけ、認定登録番号、お名前、御社名、所属部署、肩書き、送付先住所、電話番号、そして必要部数をご連絡ください(ご希望の部数につきましては、ご連絡をいただいた段階で調整させていただく場合がございます)。

2016年度「医療経営士」資格認定試験ポスターを差し上げます!

2016年度の「医療経営士」資格認定試験のポスターを製作中です。会員の皆様へ差し上げますので、職場やお取引先へポスターをお貼りいただき、「医療経営士」の認知度アップへご協力ください。

ポスターをご希望の方は下記のアドレスへ「医療経営士ポスター希望」とタイトルをつけ、お名前、御社名、所属部署、肩書き、送付先住所、電話番号をご連絡ください。

お申し込み ▶ E-mail: info@jmmpa.jp

協力団体セミナーのご案内

**ますます求められる医療経営士と栄養部門の連携
栄養部門を学ぶためにオススメです!**

第1回 全国栄養経営士のつどい
栄養経営士がつくる栄養分野の新たな未来

3月13日(日)

・全国栄養経営士のつどい10:00~16:40 ・懇親会17:00~19:00
・東京都医業健康保険組合会館大ホール(東京都新宿区)
・医療経営士(会員):3,000円 一般:8,000円 ※税込、懇親会別途

プログラム(一部) ※プログラムは変更になる場合があります。

【基調講演】 栄養部門の現状と未来

—— 超高齢社会における地域医療のなかで何をすべきか
鷲澤尚宏(東邦大学医療センター大森病院栄養部部長、准教授)

【特別講演】 管理栄養士に期待される新たな役割

—— 変わりゆく、栄養を司る専門職としての存在意義

中村育子(医療法人社団福寿会福岡クリニック在宅栄養課課長、日本在宅栄養管理学会副理事長)

**職場や知り合いの
管理栄養士にもご紹介ください!** 詳細は

栄養経営士 つどい

検索